

マーブル福祉会のあゆみ

特定非営利活動法人 マーブル福祉会
理事長 浅井 剛久

平成2年5月24日 就学前のハンディを持つ子どもたちの保護者が、子どもの療育や就学を考える親の会を立ち上げました。最初は「印西市にマザーズホームを」の目標をかかげて活動し、たんぼぼ園の前身となる簡易マザーズがスタートしました。しかし、子どもの成長につれ悩みも変わってきました。学校から帰っても過ごす場がなかったのです。当時学童保育室はありましたが、障がいのある子は入れてもらえませんでした。そこで、「ないなら作ろう」と考え、数人の保護者がお金を出し合って放課後を過ごす場を作りました。その過程で「NPO 法人 マーブル福祉会」を設立し、経営を行ってきました。そして、その実績が認められ、印西市が障がい児放課後対策事業を設立し、マーブル福祉会が指定管理を受け「クリオネクラブ」として現在に至っています。全国初の障がい児学童ということで、全国から見学者が訪れました。

その後、印西市日中一時支援事業「すずらんクラブ」など3つの事業を立ち上げました。その後の課題として、生活介護等県の指定事業の展開、福祉会の基点となる場所を印西市内に作ることでしたが、2019(R1)年6月1日、多機能型援事業所「マーブルハウス」を印西市草深に開所しました。

マーブル福祉会は ①障がいのある人が地域で共に生きる地域社会づくり ②障がいのある人の心豊かで安定した日常生活の支援 ③障がいのある人の社会参加や自己実現を目指していきたいと思います。

<沿革>

- 1990(H2)年 5月24日 就学前のハンディを持つ子どもたちの保護者が、子どもの療育や就学を考える親の会を発足させた。
- 2003(H15)年 12月9日 「NPO 法人 マーブル福祉会」設立し、学童保育所の前身となる「クリオネクラブ」を運営した。
- 2005(H17)年 4月1日 印西市障がい児放課後対策事業として「クリオネクラブ」が市と委託契約を結ぶ。
- 2010(H22)年 9月15日 印西市日中一時支援事業「すずらんクラブ」が印西市から指定を受ける。
- 2013(H25)年 4月1日 印西市地域活動支援センター(Ⅲ型)事業「マーブル工房」(印西市岩戸3254番地1)が印西市から委託を受ける。
- 2014(H26)年 7月1日 障害児通所支援事業「マーブルメイト・マーブルキッズ」(白井市谷田785番地14)が千葉県から指定を受ける
- 2017(H29)年 5月1日 指定相談支援事業「結愛(YUI)」が県から指定を受ける
- 2019(R1)年 6月1日 多機能型事業「マーブルハウス」(印西市草深571番地3)が県から指定を受ける
- 2020(R2)年 7月1日 障害児通所支援事業「マーブルメイト・マーブルキッズ」(印西市草深571番地3)が県から指定更新を受ける
- 2022(R4)年 5月31日 印西市地域活動支援センター(Ⅲ型)事業「マーブル工房」が印西市との委託契約を終了する。